

平成28年度 五泉市図画工作部 活動報告

部長 石本 恵美里 (五泉小)

1 研究主題

「個性的な表現を生み出す手立ての研修を深める」

2 研究の概要

4月13日(水) 活動計画立案

6月22日(水) 素材研究～食品サンプル作り～(五泉小学校)

9月7日(水) 実技講習会「造形遊びとその評価」

講師 山川 眞知子様

10月26日(水) 研究授業「てでさわってかくの きもちいい」

授業者 村松小学校教諭 雑賀千佳

3 研究の実際

(1) 素材研究～食品サンプル作り～ (会場 五泉小学校)

超軽量の紙粘土を使って作品を作った。作品作りに入る前に、粘土を伸ばしたり、ねじったり、色を付けたりする時間を十分にとることが、作品のイメージをつかむために重要であることを再認識できた。班で活動することで情報交換が十分にでき、子ども同士がかかわって学習するのに適した素材といえる。

(2) 実技講習会 造形遊びとその評価 (会場 五泉小学校)

「型押し」の実技講習会を通して、表現することの楽しさや評価の仕方を学んだ。大切なことは教師がまず体験し、指導の仕方を確認することであると教えていただいた。そうすることで、児童が作品作りで困っているときにも支援できる。また、作品鑑賞についても、作品の出来栄だけを評価するのではなく、その過程を観察し、評価できるようにしなければならない。

(3) 研究授業 「てでさわってかくの きもちいい」 (会場 村松小学校)

本題材では、「どろどろえのぐ」(液体粘土)を使い、友達の表現のよさを自分の作品に生かしながら、より自分の思いを深めて表すことができる力を付けていく。そのことを受けて、本時の導入では、体全体で「どろどろえのぐ」を試す時間を確保した。児童はすぐに気に入って、何色かを混ぜたり、手の側面を使ったりして描いた。授業の最後に全員で作品を鑑賞した。その際、児童が気付かない作品のよさや児童からは出なかった表現の仕方を教師が紹介し、学習を終えた。本時では、児童の自由な表現にはグループ活動は有効であった。それは、グループ活動をする過程で、最初は友達の実例だったものが、やがて自由な表現が見られるようになったからである。課題は、鑑賞タイムにおいて、児童が紹介する作品がきれいに整ったものに偏ったことである。児童が様々な表現ができるようにするためには、教師がねらっている表現の仕方を紹介することも大切である。



4 成果と課題

「個性的な表現を生み出す」には、児童がじっくり素材に向き合い、かかわっていく時間を確保することが大切である。また、作品を鑑賞する時間を設け、お互いの作品のよさを自分の表現に生かせるよう活動を構成していく必要がある。作品のよさとは完成度だけではない。児童がどのような思いで、どのような過程で作品を作ってきたのかを知ることが、個性的な作品作りにつながるであろう。